

「爽やかな風を感知でき、命の大切さがわかる自転車は実に素晴らしい」



「自転車の需要構造を変えていくことが大切です」と阿部会長

のは実に人間にとって素晴らしいツールだと言えます。自転車に乗れば空気の流れ、風の爽やかさを心地よく体感できますよね。自転車は命というものを感じさせてくれるツールです。私、以前から故加藤一さん（元競輪選手。パリに住み、レース風景をはじめ自転車の疾走シーンを描き続けた）の絵が好きで、個展も見に行ったりしてましたけど、加藤さんは自転車の創り出す風の動きを巧みに表現されていましたね。

それはともかく日本では通勤や通学、買い物といった実用的な生活の中で自転車が使われることが多いのですが、レジャーとかスポーツといったシーンでもっと自転車が選択されることが増えてもいいと思いますね。自転車がどういう使われ方をするのかというのは文明のひとつのバロメーターのような気がします。環境問題の観点から言っても自転車は人類に望ましい乗り物です。自転車を尊ぶ社会の実現に努力していきたいですね」

「20世紀がモータリゼーションの時代ならば、21世紀は自転車の時代と言えるんじゃないでしょうか。是非そうありたいものです。」

「最近、高島俊男さんが書かれた『百年のことば』という本を読んだのですが、その中に中国では1900年、つまり20世紀の最初の年の世相を代表する言葉は『脚踏車』、すなわち自転車だったことが紹介されています。それから100年ちよっとたった現在、中国ならずとも21世紀の幕開けを飾る言葉の中に自転車も登場しているんじゃないでしょうか。環境、健康、レジャー、スポーツといった切り口でね。ですから、もっともっと自転車が脚光を浴びていいはずです」

「自転車は時代の追い風を受けているわけですからね。」

「そうですね。日本でももっと自転車の有用性が見直されてもいいんじゃないかな。そのためには自転車の世界の人が充分に自転車の楽しさを自ら体験し、自転車の魅力を伝える努力をしていく必要がありますね。毎日、毎日、自分のまわりの人に自転車に乗る楽しさをアピールしていくことが大事です。残念ながら日本ではまだまだ一般の人が自転車の良さに気づくシーンが少ないんじゃないでしょうか。都市づくり、街づくりといったことでもっと自転車が活用されてもいいですね」



秋光翔のペンネームで上梓した『文化としての日本的経営』



ポーランド赴任中の思い出を綴った『チビクロの冒険』。装丁に使われている表紙の絵も自ら描いたものだ

よね。今のままでは地球環境は悪化する一方で、ますます異常気象が続きますよ。それを防ぐ意味でも排ガスのない自転車の役割は重要ですよ」

「そうしたことを自転車業界の人がもっとアピールしていかないと。」

「自転車の素晴らしさを訴えるためのいろんな機会を利用し、自らもそうしたシーンを少しでも多くつくりだしていきたいものです。自転車に対するシンパを増やす努力をつづけていくことが大切です。何しろ自転車は2歳から80歳、人によっては90歳くらいまで使える乗り物ですからね。それに自転車は共に話し合える国際共通語的な要素がありますね。私は90年代の初め頃、長期休暇をとるとヨーロッパを車で旅